



南東側外観



世界で活躍する
日本の建設企業



オープンエア パーラウンジ



Jakarta

スナヤン プロジェクト・ ホテル複合棟工事

カジマインドネシア社 プロジェクトマネージャー

山本真嗣

Masashi Yamamoto

スナヤン・スクウェアとは

当プロジェクトは、近年成長著しいインドネシア共和国の首都・ジャカルタ中心部に位置する複合商業施設「スナヤン・スクウェア」の一角を担う五つ星ホテル「フェアモント・ジャカルタ」の新築工事です。

スナヤン・スクウェアは、スナヤン国立競技場の隣接地（約一九万平方メートル）に、インドネシア政府とのBOT契約（Build-Operate-Transfer）に基づき鹿島が開発・運営しているものです。一九八九年の契約締結以降、当地先駆けとなる高級ショッピングモールを皮切りに事務所ビル三棟、アパート四棟、その他商業施設一棟を順次完成させており、当工事はスナヤン開発の最終章を飾るものと位置付けられています。

また当開発全ての施設の設計・施工・管理運営を鹿島が担うという点で、「オール鹿島」を強みにし、日本にある施設にも見劣りしない高い品質を実現しているのが最大の特徴です。

工事の特徴

建物概要としては、総延べ床面積約一二万四、〇〇〇平方メートル、建物高さ一五四メートルの三三階建てのタワー棟、一階から三階までの低層棟、さらにそれらに付随した六階建て駐車場棟で構成

これらは地下通路を通じて既存施設と接続する計画です。同ホテルは、ジャカルタ市を代表する五つ星ホテルとなることが期待されています。建物の特徴としては、タワー棟外装にアクリルゴム系複層塗材を施したコンクリート製PCカーテンウォールと約四角の大型アルミサッシ、低層棟は総花崗岩で、重厚感あるファサードを形成しています。内部は主に大理石、積層



大宴会場全景

されています。タワー棟は、五階から二一階までがホテルの普通客室階、二二階にあるオープンエア（天井高六・八メートル）の展望ラウンジとレストランを挟んで、二三階から上階は中・長期滞在型客室階という特徴ある構成になっています。

一方低層棟は、大型宴会場、ミーティングルーム、レストラン等の機能で構成されており、天然再生突き板材をふんだんに用い、インドネシア的な味わいを持つ高級感溢れる内装に仕上がっており、来館者を和ませる設計コンセプトとなっています。

また施工にあたり、着工前から当地の好景気に起因した労働力不足が懸念され、これを解決するために幾つかの工夫を試みました。代表的取り組み事例としては、タワー棟外装における大型アルミサッシ取付工事に際し、特注クレーンおよび特殊吊り治具を検討・製作し、省力化を図ったことが挙げられます。これにより、同時にサッシ骨組構造の増強をせずに、施工フェーズのみで生産性の向上を実現することが出来ました。ほかにも知恵を絞った取り組みを重ね、さらに社内関係各部署の理解とサポートを得ながら、躯体工事では基準階平均六日サイクルを記録し、工事は順調に推移しています。

総仕上げに向けて

現在、建物全域において内部仕上げ工事の佳境を迎えています。

これからいよいよ総仕上げに向かうにあたり、引続き「オール鹿島」を念頭に、またスナヤン・スクウェア最終章に貢献していることを誇りに思い、建物の立派な完成まで日々邁進していきたいと思っています。